

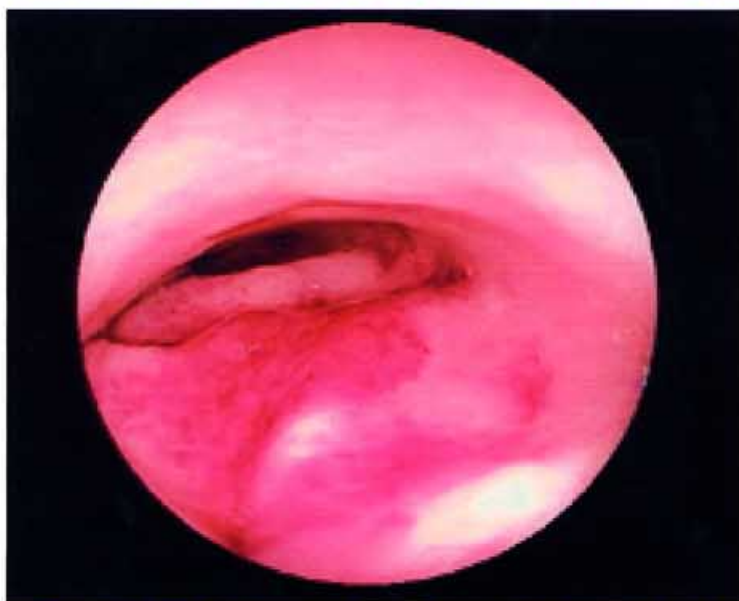
## 当院から投稿し、掲載された学術論文

2003年3月 The Journal of Veterinary Medical Science 65 (3) – 英文 –

### Histiocytic ulcerative colitis in a French bulldog (フレンチブルドッグに見られた組織球性潰瘍性大腸炎の1例)

田中 宏 中山正成 高瀬勝晤(北里大学獣医畜産学部外科学教室教授)

#### Histiocytic ulcerative colitis in a French bulldog



大腸内視鏡所見。広範な充血と部分的に潰瘍が観察される。

A 9-month-old French bulldog was referred for signs of chronic large bowel diarrhea. The dog had an increased frequency of defecation, tenesmus and hematochezia. Flexible colonoscopy showed hyperemia and irregularities with multifocal hemorrhages in the mucosa from the descending colon to the proximal rectum. Multiple colonic biopsies were characterized by infiltrations of PAS positive histio-

cytes in the lamina propria. A diagnosis of histiocytic ulcerative colitis (HUC) was made, and the animal showed only minimal improvement, although it was treated with nutritional and medical therapies. This is the second case of HUC in French bulldog, a breed which has ancestral relations to Boxer dogs.

9ヶ月齢、雌のフレンチブルドッグ(体重10.7kg)が生後4ヶ月齢より慢性大腸性下痢を呈した。大腸二重造影で結腸遠位から直腸近位に軽度な粘膜の粗造化を認めたため、大腸の内視鏡検査を実施した。その結果、同部位に広範な充血と多数の点状出血を伴った粗造な粘膜と潰瘍が観察された。病変部の生検の結果、粘膜固有層に多数のPAS染色陽性の組織球浸潤が証明され、組織球性潰瘍性大腸炎(HUC)と診断された。



大腸二重造影所見。結腸遠位から直腸近位に軽度な粘膜の粗造化を認めるぐらいである。

組織球性潰瘍性大腸炎は、粘膜固有層の組織球性炎症による炎症性腸疾患の一つです。HUCの報告はそのほとんどがボクサー犬であり、臨床症状は下痢、血便、しぶり、粘膜便といった大腸性下痢が見られ、症状の発現はほとんどが2歳以下で、慢性経過をたどり、重症例では体重減少や食欲減退を起こすと言われています。また、その他の炎症性腸疾患に比較して、内科的治療に対する反応は好ましくなく、予後が悪いとされる疾患です。しかし、治癒は見込めませんが、早期診断によりある程度コントロールできるとも言われています。

確定診断は内視鏡によって生検材料を採取し、病理組織学的に大腸組織の粘膜固有層に多数のPAS染色陽性の組織球浸潤を確認することによって行われます。今回、フレンチブルドッグとしては本邦では初発例となるHUCが発見されました。本疾患はボクサー犬以外の犬種にも発症する可能性があり、確定診断は病理組織学的検査によってのみ行われることから、若くて大腸性疾患を発症し、慢性経過をたどる症例は早期に内視鏡を実施し、組織材料を得ることが重要であると思われます。